
開講科目名：不動産登記法実務研究 (4単位)

開設年次：1年 2年 3年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：寺町 敏美

《授業の概要》

《授業の目標》

手続法である不動産登記法の基礎的・基本的な知識と技術を習得し、さらに実社会での登記の意義や役割を実例を通じて民法、商法等の実体法との関わりを体験する。

さらに、登記制度の将来を展望する。

《授業の概要》

本講義では、「集中講義 不動産登記法〔第3版〕」を用いる。

登記をめぐる法律論・一般論から始める。随時事例を取り入れ、登記の役割と登記の背景にある経済効果、人的要素を中心に展開する。インターネット申請の仕組みと背景を考察する。

随所に問題を設定し、できるだけ実務の感覚を養っていく。

《評価方法》

ほぼ毎回事例を決定するので、予習をしてきてほしい

《授業内容》

「不動産に関する物件変動と公示」の一般論

「不動産のハードウェア」

「不動産登記手続きの基本（１）」

「不動産登記手続きの基本（２）」

「所有権に関する登記（１）所有権移転の登記（１）」

「所有権に関する登記（２）所有権移転の登記（２）」

「所有権に関する登記（３）所有権保存の登記」

「所有権に関する登記（４）所有権抹消、信託の登記その他」

「用益権に関する登記 賃借権・地上権を中心に」

「担保物権に関する登記 抵当権の登記」

「担保物権に関する登記 根抵当権の登記」

「相続に関する登記」

「判決と登記」

「抹消登記」

「期末試験」

《テキスト》

「集中講義 不動産登記法〔第3版〕」 齋藤隆夫著 成文堂 定価 3 6 7 5 円